

令和4年度第3回佐倉市行政評価懇話会 要録

日時	令和4年11月18日（金）14時00分～16時15分		場所	議会棟全委員協議会室
出席者	委員出席者 6名 [委員長]小川 真実 [副委員長]栗田 智 [委 員] 浅野 隆、飯塚 香奈子、柴倉 宏行、立崎 貴子(五十音順)			
	事務局	(企画政策部) 向後企画政策部長、和田企画政策課長、大久保副主幹、松本主査、谷川主		
	事業担当課	(健康推進課) 細井課長、高橋副主幹、池澤副主幹 (健康保険課) 川島課長、松戸副主幹、平野主査 (母子保健課) 豊福課長 (社会教育課) 舍人課長、照井主査、高橋社会教育主事 (生涯スポーツ課) 遊佐課長、江口主査		
	その他	傍聴0名		
議事	(1) 基本施策評価についての担当課質疑（健康づくり・生涯学習・スポーツ振興） (2) 基本施策評価の取りまとめ（健康づくり・生涯学習・スポーツ振興・高齢者福祉・商工業振興）			
概要	◆ 前回懇話会の際に、評価シートの記載方法や評価方法について委員の皆様からいただいた意見をもとに、評価シートの記載方法を修正したことから、修正した評価シートについての説明を行った。 ◆ 「第5次佐倉市総合計画前期基本計画」の基本施策のうち、重点目標2の施策である「健康づくり」「生涯学習」「スポーツ振興」の3つの施策の令和3年度における進捗状況について、担当課職員出席の上、質疑を行った。 ◆ 各基本施策のA～E評価（総合評価）の妥当性について検証し、「健康づくり」は妥当、「生涯学習」は改善が必要、「スポーツ振興」は評価シートへの追記のうえ妥当、であるとして、懇話会としての意見をまとめた。 ◆ 前回質疑を行った「高齢者福祉」「商工業振興」について、修正した評価シートにより、各基本施策のA～E評価（総合評価）の妥当性について検証し、「高齢者福祉」「商工業振興」とも妥当、であるとして懇話会としての意見をまとめた。 ◆ 第4回懇話会は令和5年2月以降とし、改めて日程調整を行うこととした。			
内 容				
◆議事 (1) 基本施策評価についての担当課質疑（健康づくり・生涯学習・スポーツ振興） (事務局) [資料1により、修正した評価シートについて、担当課質疑の流れについて説明] ＜基本施策：健康づくり＞ (健康推進課) (資料1により内部評価の内容を説明) (委員) チャレンジマイヘルスプランはとても面白い試みである。どれくらいの市民の方が参加されているのか。 (健康推進課) 令和4年度の実施者数はまだ集計が終わっていないが、昨年度は全体で753名が参加された。内訳は幼児105名、小学生285名、中学生5名、成人358名となっている。 (委員) 私自身も健康志向が高いのだが、健康増進アプリなどが全国の自治体でも導入されている。佐倉市は現在紙ベースだと思う。市民の健康データを収集する点で規制や注意点はあると思うが、今後の				

方向性としてアプリなどは考えているのか。アプリだと集計もしやすい。

（健康推進課）健康アプリなど他市の取り組みは情報収集している。費用対効果や高齢者にも使える幅広い世代に受け入れられるようなものを、今後とも研究して参りたい。

（委員）成果指標②の「特定健康診査受診率」の令和2年度は21.1%だが、令和3年度は28.7%に改善している。一方で成果指標③の「がん検診受診率」はあまり伸びていない。なぜ違いがあるのか分析はしているのか。

（健康保険課）健康保険課では国民健康保険の特定健診を所管している。実施は、健康推進課で行っているが、健診期間をのばす等の取り組みをしている。また、AIを使った受診勧奨として、受診者の行動パターンなどを分析した勧奨通知を行っており、「特定健診率」の向上につながっていると分析している。

（委員）AIを使った分析は成果指標③の「がん検診受診率」の方には使えないのか。

（健康保険課）国民健康保険の特別会計で行っている事業のため、「がん検診受診率」の方には使えない。

（委員長）②特定健康診査と③がん検診の受診者は重複しているのか。

（健康推進課）②特定健康診査は国民健康保険の加入者で40歳以上の方が対象、③がん検診は国民健康保険だけでなく社会保険も対象であり、また、がんの種類によって対象年齢が違う。重複して受診している人もいる。

（委員長）③がん検診は国民健康保険だけでなく、社会保険も対象ということはこちらの方が対象者は多いのではないかと。そうであれば分母が大きいので回復は鈍くなると思う。

（委員）コロナ補正の欄のところで、新型コロナウイルスのワクチン接種率が県平均より高いというのは職員の皆様の努力だと思う。途中から東邦大学病院で高校生が別枠で受診を申し込めるという連絡がラインできて、実際にすぐ予約をとれて有難かった。今後違うウィルスなどが流行しても、同様に臨機応変に対応をしてほしい。逆に、小児科の方は小児科の病院でないとワクチンが接種できず、こちらは予約が取りづらかった。診察券をつくらなくてはならず手続きが大変だった。時間も手間もかかったので、次回はもっとスムーズにできるようになってほしいので参考になればと思う。

（委員長）佐倉市においては、県平均よりも新型コロナウイルスのワクチン接種率が高かった。その要因は。

（健康推進課）令和2年度からワクチン接種を開始し、医師会との協力体制のほか個別接種を推進した。他に集団接種会場も設け、ダブルで接種を勧めたのが大きな要因ではないか。

（委員長）集団接種会場は企業と協力して行ったのか。

（健康推進課）集団接種の設営や医療従事者の確保も民間と連携した。

（委員長）職域接種については何を行ったのか。

（健康推進課）職域接種は市役所の管轄ではなく、それぞれの職域で実施するため、企業が直接県とのやりとりをしながら実施する。市は企業から相談があればアドバイスなどを行った。

（委員長）ファイザーが優先的に確保できたのかと思ったが、そういうわけではないと理解した。成果指標④の「国民健康保険被保険者一人当たりの医療費について、令和2年度は受診控えなどにより抑制されていたのが令和3年度に反動があったとある。目標値を上回っているが、これはどういうことか。

（健康保険課）佐倉市だけでなく、全国的な傾向として令和2年度は受診控えがあった。令和2年度中に手術や入院を控えた方々が、令和3年に受診したことによって医療費が大きくなった。

（委員長）質問は以上でよろしいか。

〔各委員、承諾〕

<基本施策：生涯学習>

（社会教育課）（資料2により内部評価の内容を説明）

（委員）令和2年度から令和3年度にかけて指標が悪化しているが、これはコロナ禍において施設がオープンしていた延べ日数が減っているからなのか、それとも他に何か理由があるのか。

（社会教育課）施設の開館状況としては、令和2年度は4月、5月は休館、それ以降は時短により夕方6時までしか開いていなかった。それに対して、令和3年度はまん延防止措置のため本来は夜9時までのと

ころ夜8時までしか開けなかったが、一日中休む、というような休館日はなかった。

利用人数でいうと、令和2年度に6万人であったのが令和3年度に12万人に倍になった。ただ、指標という面でみると、市民意識調査は年度が始まってすぐに行うため、前年度の影響を受けてしまう。そのため、令和3年度の意識調査は令和2年度の影響を受けていると分析している。そのため、令和3年度は利用人数が増えているが、成果指標としては落ちてしまった。

（委員）令和3年度の成果指標の結果は令和2年度の実際の結果を表しており、成果指標に遅れが生じてしまうため実態としては前年度の結果を表しているというのであれば、令和3年度の評価ではないということか。

（社会教育課）来年度の成果指標が伸びるという確信があるわけではないが、実情は貸出人数、講座数が増えているので利用頻度が増えていると認識している。

（事務局）皆様の手元にある「主要施策の成果説明書」の266ページから267ページにかけての「公民館活動事業」の活動指標・成果指標をご覧くださいと、実際に利用人数は増えている。市民意識調査は5,6,7月に行っているため、どうしても前年度の意識で回答をするため、前年度の影響を受ける。成果指標の設定の仕方に問題があったのかもしれない。コロナ禍ではない通常時は遅れてもそれほど影響はないが、コロナ禍で格段に影響が変わると、成果指標とのずれが生じてしまう。公民館だけでなく、図書館の利用人数についても令和3年度は伸びている。

（委員）佐倉は近代的な地域と自然いっぱい地域が混在している。老人たちが都会だから恵まれている、というわけではない。昔ながらの家の場合は地域と密着しており、仲間もいるため、公民館の利用がなくてもとくに心配なくていい。そのような地域差はどのように認識しているのか。

（社会教育課）中央公民館が一番大きい、利用人数は志津公民館が一番多い。活動されている人数でいうと志津地区が圧倒的に多い。ただ、中央公民館の市民カレッジも、志津公民館の市民大学も、根郷公民館の寿大学も定員を超えている。地域にあった特色のある授業を行っていききたい。

（委員）佐倉のインター付近は運送関係の会社が増えているが、和田、弥富は人口が増えておらず孤立しているのではないかと。高齢者が孤立してしまうことは問題である。外に出てくる高齢者はいいのだが、外でお話することが嫌いな高齢者もいる。そのような高齢者が行動するようになるものや、精神的に豊かになるようなプログラムや施策を考えてみてはどうか。

（社会教育課）具体例を挙げますと、社会教育課が実施しているわけではないが、地域ごとにお弁当をつくって高齢者に配るボランティアを行っている。和田・弥富・根郷は盛んであり民生委員とも連携している。それに対して志津は希薄なところがある。また令和2年度、3年度はコロナ禍のせいで調理室が使えなくて、そのような活動ができなかったことから社会教育課としても不安なところがある。

（委員）成果指標②の「図書館を年の一回以上利用している市民の割合」の「目標に達しなかった場合の要因」に「電子書籍の普及などにより、図書館利用者が減少している」と書いてあるがその対策のことが書いていない。コロナ対策をしても電子書籍を楽しむ人は図書館に来ないままなのではないか。

「みんなでつくるおススメの本コーナー」という施策はとても良いと思う。本屋でもポップは人の目をひく。図書館も同様なことを行ってみてはどうか。市民だけでなく、司書や市長のおすすめの本というようなポップを飾るなど、図書館が楽しくなるようなことをしてはどうか。

また、個人的な話になるが、同じ本を借りることがよくあった。希望する方には、借りた本の履歴が図書カードから読み込めて本人が確認できるシステムはどうか。また自分で記録をつける専用ノートをつくるなどはどうか。感染対策だけでなく、いろいろ利用者が増えるような工夫に取り組んでほしい。

（社会教育課）貸出者数がコロナ前、平成27、28年ごろより下り坂になっている。年間貸出者数150万人あったのが、今は120万人となっている。市民意識調査で二年ほど前から「なぜ図書館を利用しないのか」を調査している。一番多い理由は「遠方だから」であるが、「電子書籍を読むようになったため」と書かれるかたもいた。

令和5年3月に新しいシステムが導入され、電子書籍を電子図書館にして家でも読めるようにする。他にも歴史資料をデジタルアーカイブにして家でみられるようにする。佐倉市民でない方が佐倉市に興味をもってもらうきっかけにもなる。利用者が本人の履歴を見られるようにするお話についてだが、そこまでできるかわからないが、利用者カードをスマホにし、そこにデータを残せるようにできないか、など考えて

いる。

（委員）質問ではなく意見だが、令和5年3月の新町の夢咲くら館は、ただの図書館だけでなく、飲み物が飲めるところや、歴史の勉強ができるところ、コンサートができるところなど様々な使い方ができる。すでにお祭りの時や、ワクチン接種の時に利用するなど地域に溶け込んでおり、利用方法を整理して実行されたのはすごくいいことだと思う。ただの公民館、図書館だけでなく複合的な使い方ができる。令和5年度の実績になるかもしれないが、V字回復を目指してほしい。

（委員長）貸出履歴は、銀行通帳のような形で残せる取り組みをしている自治体がある。

（委員長）質問は以上でよろしいか。

〔各委員、承諾〕

＜基本施策：スポーツ振興＞

（生涯スポーツ課）（資料3により内部評価の内容を説明）

（委員）施策の2番目の「目標達成に向けての取り組み」の「コロナ禍に対応した授業の工夫」とは具体的にはどういったものか。学校の授業のことなので生涯スポーツ課が直接行っているわけではないことは理解しているが知りたいので教えてほしい。

（生涯スポーツ課）具体的に取り組んでいるのは教育委員会だが、生涯スポーツ課で把握している範囲でお答えすると、体操でも接触しない、体育館ではなく外で授業を行うなどの工夫である。

（委員）成果指標の進捗状況の②について意見を申し上げたい。小学校では運動好きな子どもが減っている。学校で思いっきり鬼ごっこをするなどの活動ができなかったことが要因だと思う。感染対策しながら、かけっこなどの運動をしても子どもはスポーツ好きにはならないと思う。スポーツ好きでない子が好きになるための方策としては、ビーチボールを使ったミニバレーで、アタックをブロックしてはいけない、相手コートに返すまでに3回ではなく5回触ってもいい、などラリーが続けやすく、小学校低学年でも楽しめるものがあったり、他にも三角形のボールであちこちに転がっていくようなもので遊ぶスポーツや、酒々井町ではバタポンという卓球のラケットのようなものでバドミントンをするスポーツもある。スポーツが得意ではなくてもみんなでわいわい楽しめるスポーツがある。学校はカリキュラムがあり難しいかもしれないが、遊び感覚で楽しめるスポーツを提案してほしい。

（委員）先日、ふるさと広場にダンボールのカヌー大会を見に行った。昔は印旛沼の水は汚くてそんな競技はできなかった。ダンボールを自分たちで船にして作るのだが、子どもが積極的にダンボールを組み立てて、親子で出場している人もいた。船を作っているところを見たが、計算までしたりする人もいたり、女の子もペアになって共同して制作に取り組んでいた。親子のチームはとても楽しそうだった。自分で作った船が出ていくという、できなかったことができるようになる。是非そういったプログラムがあるといい。

（委員長）スポーツ施設を整えることも大事だが、現場にいる指導者も大事である。指導者教育について何か取り組んでいるのか。

（生涯スポーツ課）スポーツリーダーバンクというものがあり、指導者を派遣する事業を行っている。年一回、指導者向けの研修を開催したり、学校の現場の先生にスポーツ紹介をする研修を夏休みに行ったりしている。

（委員長）大学によっては、スポーツなどで騒いでいると苦情を言ってくる人もおり、難しくなっている。指導者も年齢によってはスポーツの取り組みかたに偏りがある。自分の受けた体罰を武勇伝のように語ってしまったり、今の若者はスポーツに対する意欲がそがれてしまう。小学校や中学校の現場にそのような影響が及んでいないといいなと思う。子どもは基本的にスポーツが好きだと思う。佐倉市は著名なスポーツ選手もいるので、それにあやかった取り組みも行っているとは思いますが、スポーツのまち佐倉で指標が伸びていないのが意外だった。

（生涯スポーツ課）コロナ禍でスポーツができる子どもが少なかった。今年度からスポーツができるようになってきている。少年野球の部員人数は5,6年前とあまり変わっていない。子ども自体が減っていることを考えると、スポーツをする割合は増えていると感じる。スポーツをやらない子ができるようになる方

策を考えていきたい。

（委員長）質問は以上でよろしいか。

〔各委員、承諾〕

（２）基本施策評価の取りまとめ（健康づくり・生涯学習・スポーツ振興・高齢者福祉・商工業振興）

<担当課質疑取りまとめ（健康づくり・生涯学習・スポーツ振興）>

（委員長）担当課質疑を踏まえ、各委員の皆様から意見や、感じられたことなどがあればお寄せいただきたい。その質疑を経て、懇話会として、各基本施策の評価Ａ～Ｅが妥当であるか、決定していきたい。

まず、健康づくりの施策に関してはいかがか。

（事務局）前回に配った評価シートから書式を変えており、前回も載っていたコロナ補正後の評価は今回の評価シートの裏面にある。今回の評価シートの表面のコロナ補正前の評価については妥当であると思われる。今回の評価シートの裏面のコロナ補正後の評価について、妥当であるかご審議いただきたい。

（委員長）基本的に今回の評価シートの表面のコロナ補正前の評価は妥当と思う。裏面の補正後の評価を議論したい。

（委員）それぞれの指標についてウェイトはあるのか。

（事務局）本来はあるべきだと内部の評価委員会でもでてきたが、現在ウェイトというのはない。なおかつ、成果指標以外の事業も「施策内の主な事務事業」として記述しているが、そちらも加味して総合評価している。

（委員）「健康づくり」の評価には違和感はないが、そのあとのものに違和感があると感じている。ウェイトがあるのか、ABCDを数字に置き換えると何になるのかなど、行政の評価には透明性がないといけない。ロジカルに定量的に評価したい。ただ、コロナ禍のことを定性的に評価して補正をするのはあるべきだと思う。

（事務局）主要施策の成果の説明書に成果指標を載せたのは初めての試みであり、議会の議決をいただいたものの、成果指標の設定方法について集約ができていなかった。さらにコロナ禍が重なった。来年度、次の中期基本計画を定めるときには成果指標の決め方を中心にやっていきたい。

（委員長）拙速に進めない方がよいと思う。重要な問題だから時間がかかると思う。さらにウェイトを設けると余計に複雑になってしまうので、時間をかけて考えていかなければいけない。成果指標が独り歩きしていく懸念がある。提言書をまとめるときに「成果指標の決め方を急ぐ必要はない」とまとめたいと思う。

（事務局）ロジカルに計算の結果であるべきだというのはもっともだが、成果指標が複数あり、例えば先ほどの健康づくりのように健康推進課、健康保険課、母子保健課の三課が事業を実施している場合、ウェイトを設けると自分の課の指標の重要性に差が出てしまうのはよくないと思う。

（委員長）行政サービスは住民をターゲットにしているので、内部の話し合いだけでは決められない。時間をかけてゆっくり議論するべきと思う。

（事務局）コロナ補正で上げているというパターンとなっているが、評価が上がりすぎている、ということであれば忌憚のない意見をいただきたい。

（委員）コロナ補正をするのは仕方がないと思う。たとえば金融でいうと融資の実行額がどう増えたのかだけでなく、経済状況や為替、佐倉市の状況などが複合的に関係していく。結果だけでなく、プロセスや背景も考慮にいれるべきである。本当によくやられていると思う。コロナ補正前はＣになるとは思うが、コロナという状況も踏まえて補正してＢにするのは良いと思う。

（委員）成果指標①・１と①・２は問題ない。②と③は初期値以下だが、前年度よりは上がっている。④の金額も評価はＢで良い。補正前の総合評価はＣであるが、コロナ補正を入れてＢにするのは良いと思う。

（委員）正直なところを言うと補正が入るとよくわからなくなるが、２つの検診の受診率は、密にならないように集団検診の実施期間や実施時間を拡大したということは、市の職員がその分時間を費やしてい

る。対策をしているので、その分を評価しても良いと思うので評価は妥当だと思う。

（委員長）令和２年度には佐倉市民は自粛し、令和３年度に先送りした医療を受けた。行政の方もそれに伴って検診の時間枠を拡大した。目に見えないウィルスが敵であり、成果指標が初期値を達成するのは難しい。個人的な話だが、80歳の母が４歳の娘に会いたがる。しかし都会から家族が帰ってきて、家族がコロナにかかるると田舎では住めなくなる。そういう人の考え方や心理を変えるのは難しい。そういう状況に対応したことも含めて、コロナ補正後の評価はＢで良いと思う。

（委員長）委員の皆様、いかがでしょうか。

〔各委員、承諾〕

（委員長）では生涯学習については、いかがか。

（委員長）担当課との質疑において明らかになったとおり、令和３年の指標は令和３年度の実態ではなく、前年度の実態を示す指標になっている。令和２年度には閉館していた期間があることなどをコロナ補正のところに書いていない。書いていないものは評価できない。二段階上げるのは無理がある。

（委員）市民意識調査は客観的な評価にならないと感じる。サンプリングする期間も５、６、７月であり、前年度の影響を受けてしまう。２ランクを上げる客観的な理由がない。１ランクあげるのはコロナ禍という理由があるため問題ないが、２ランク上げるには他に客観的理由が必要である。

（委員長）成果指標も来年度以降に考え直した方がいいのではないか。別の話だが、生涯教育の利用者を増やしたくて、新町に複合施設をつくることになったのか。

（事務局）老朽化も理由である

（委員長）補正しても評価はＣである。初期値を下回っているのでＢまでは上げすぎ。Ｂに挙げるなら理由として具体的な数値を挙げてほしい。

（委員）ランクをひとつあげるか、ふたつあげるかも明確な基準がない。補正効果もそろえるべき。コロナ補正をしてＣにするか、コロナ補正をしないかのどちらかしかないと思う。

（委員長）評価はＣでよろしいか。

〔各委員、承諾〕

（委員長）ではスポーツ振興については、いかがか。

（委員）総合評価で目標を５０％達成しないとＣにならないはずだが、成果指標だと１３％でもＣになっているのは、基準が違うのか。

（事務局）成果指標のＡＢＣＤについては前回の懇話会で配布した資料の２ページに成果指標の進捗状況の分類が書いてある。Ａは目標達成したもの、Ｂの「順調」とは達成率が７０％から９９％のもの、Ｃの「進展」とは達成率が６９％以下のものであり、少しでも進んでいればＣとなる。初期値以下がＤとなる。総合評価のＡＢＣＤとは別のものとなっている。

（委員長）コロナ補正を認めるか認めないか、いかがでしょうか。

（事務局）先ほどの担当課質疑の際に担当課からの説明はなかったが、新型コロナウイルスのワクチンの集団接種を市民体育館でやっていたため、市民体育館を半年ぐらい使えなかった。そのため、スポーツイベントを行う場合は市民体育館を使用するが多いが、実施できなかったことがある。ただし、そういったことは評価シートには書けていない。

（委員長）コロナ禍という状況に応じて、市民体育館でスポーツを提供するよりも、ワクチンの集団接種会場にした方がはるかに利益として高い。そういった事情をコロナ補正の説明として聞きたかった。

（委員）それを書いてもらったうえでＢ評価としてはどうか。

（事務局）記載するようにします。

（委員長）委員の皆様、いかがでしょうか。

〔各委員、承諾〕

（委員長）「健康づくり」「生涯学習」「スポーツ振興」についてはよろしいか。では、前回の課題に移りたいと思うが、「高齢者福祉」「商工業振興」について事務局から説明をお願いします。

<基本施策：高齢者福祉>

(事務局) (資料4により内部評価の内容を説明)

(委員) 高齢者福祉の項目こそが、コロナの影響が一番大きかったのではないか。コロナ禍は高齢者への心理的な影響が大きいものであった。成果指標の①「高齢者クラブ会員数」は令和3年度も初期値以下だが、令和2年度からそう大きく減少したわけではない。成果指標②「週一回以上活動する通いの場」も、コロナ禍において人が集まる場所に行きたくないという心理が働いた。一方で成果指標③の「認知症サポーター数」はカウント方法が累積である影響もあり増加している。文字数が多いが、それだけたくさんのことに取り組んでいたことが分かる。総合評価としてコロナ補正を入れてBというのは納得できる。

(委員) 高齢者クラブは歴史があり、仲間がたくさんできている。この歴史は大事にしたいので、もっと増えるように応援したい。

(委員) 令和4年度のことなので今回の評価に影響するわけではないが、ボランティアで小さい子どもがいる家庭を訪問している。その方のお父さんが認知症で、すぐいなくなってしまう。その場合、前の市より佐倉市は対応が早いと言っていた。これからも頑張ってもらいたい。

(事務局) 前回の懇話会で「書いていないことは評価できない」とのご指摘があったこともあり、全部書いてもらったところ長い文章になってしまった。高齢者福祉課も介護保険課もコロナ禍という初めての体験を令和2年度にしたため、書き方が難しかった。企画政策課からも書き方をきちんと伝えるべきだったと反省している。

(委員長) コロナの第8波が1月にピークと言われているが、今年度も高齢者の福祉としては厳しい状況にあるのか。

(事務局) 高齢者のコロナワクチン受診率が県平均より高いといえど、コロナにかからなくなるわけではないので高齢者自身が心配され、活動自粛は続いている。岸田首相も経済は止めないということなので昔のような完全自粛というかたちにはならないと思うが、これからも高齢者施策は伸び悩むことが予想される。

(委員長) コロナでいったん守りに入った人を外に出すのは大変だと思う。本当に一生懸命取り組まれていることが分かった。評価はBでいいのではないか。

(委員長) 委員の皆様、いかがでしょうか。

[各委員、承諾]

<基本施策：商工業振興>

(事務局) (資料5により内部評価の内容を説明)

(事務局) 追加説明させていただきたい。産業用地が不足しているが、それでも令和9年度には弥富のリサーチパークでヤクルトさんが工場をつくるという話がある。また、令和4年度にはなるが、飲食店のリピートキャンペーンの当たりの食事券1,000円分を高齢者にフレイル予防のパンフレットと併せてお送りして、外食も兼ねて外に出てもらって、体の機能を衰えないようにしてもらおう施策を商工振興課と高齢者福祉課で連携して行っている。商工振興課は通常時と比べて5倍くらいの業務量で中小企業を支援する支援金、補助金を配布する業務、相談を受ける業務に取り組んでいる。

(委員長) コロナ禍で中小企業に給付金を出す事業の大変さは知っている。そこをもっと言及して書いて欲しかった。「4年間の取り組み」で「先端技術に関する企業を積極的に誘致し、外部から市内への人的、物的投資を呼び込みます。」とあり、その下の「目標値に達しなかった場合の要因」で「産業用地が不足しており新規立地及び大規模な増設が見込めない」とある。辻褄があっていないので説明が欲しくなる。ヤクルトさんの話のように狭いながらも新規の工場を呼び込む余地はあったということである。

(事務局) 佐倉市の南部は土地があいているが、開発ができないエリアとして都市計画を組んでいる。地区計画や開発許可を駆使して開発を頑張っている。市長が元県議会議員であり、副市長も県から来ているため、県の企業立地課を通して情報をいただき、何とか新しい企業を誘致し、若い世代も呼び込んでいき

たい。区域区分は変えられないので、なんとか工夫して開発を頑張っている。

（委員）商工振興の分野は、金融機関の人間として密接に関わっているので、評価に対してコメントできる立場にはないけれど、特に企業誘致、創業支援、補助金の活用等については地域金融機関が行政と一体になって取り組まなくてはいけないものである。これからのコロナ禍も見据えて、他の地域金融機関とも普段から情報共有しながら、行政と密接に連携していきたい。金融機関として尽力できる部分も相当ある。

（委員）成果指標③「地域職業相談室への市内相談者の就職率」について、担当課質疑の際に、率（％）だけでは達成状況が伝わらず、人数の説明があったときは驚きがあったことから、率（％）だけではなく、規模が伝わるように、人数もわかるようにしたほうが、指標の達成状況が伝わると思う。

（事務局）指標の設定に問題があったと考えるので、次の中期基本計画では成果指標の設定方法を工夫したい。

（委員長）文章の書き方の問題でもある。交わされた議論を踏まえて文章を加筆修正してもらおう。評価はBでよいのではないか。

（委員長）委員の皆様、いかがでしょうか。

〔各委員、承諾〕

（委員長）それでは、質疑取りまとめは以上になります。事務局は、今日の意見を取りまとめ、後日、提言書案として報告くださるようお願いします。

（事務局）今回の懇話会で配布した資料の修正した評価シートのように、コロナ補正前とコロナ補正後の評価を載せた書式で問題なければ、他の施策の評価についても、修正した評価シートにより、もう一度、内部評価機関である行政評価委員会において内部評価をやり直そうと検討している。次年度以降、令和4年度分の評価をする際は今回のような形式に変えたい。そのことを提言書に載せていただきたい。

（委員長）第8波など引き続きコロナの問題は考えていかななくてはいけないので、委員会としては補正の欄を設けるという書式の変更を認める。あとは文章の作り方に気をつけ、アピールできるものはもっとアピールしてほしい。

（委員長）議事については以上でよろしいか。

〔各委員、承諾〕

（委員長）そのほか、全体を通して、委員の皆様から何かご意見はあるか。

〔各委員、意見なし〕

（委員長）それでは、本日の議事はこれで終了する。

（以上）